

新年を迎えて

高岡教区教務所長 森尾淳章

新年にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

また平素より教区の宗務推進に一方ならぬご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

一月一日に発生しました令和6年能登半島地震は、教区内寺院や門信徒の皆さまにも多大な被害をもたらしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。今後、宗派と連携しながら教区内外の支援に取り組んでまいりたいと存じます。

昨年まで新型コロナウイルス感染症の拡大により、教区の多くの行事が中止・延期または縮小せざるを得ない状況となりましたが、現在は、やっと以前のような形で行事等できるようなったことでもあります。これまで教区の皆さまのご理解・ご協力を賜りながら、務めさせていただくことができましたこと、厚く御礼申し上げます。

ご本山においては昨年三月から五期三十日間親鸞聖人ご誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要が営まれ、七万五千人の参拝者があったことでもあります、各組におかれましては団体参拝にかかる準備等何かとご苦労をいただいたことでもあります。

教区の法要行事につきましては、教区法要委員会の皆さまに企画から運営までご協力いただき、園児による仏参、高校生によるヨサコイ、仏教婦人会によるコーラスなど、アトラクションも併せ開催し、多くのご参拝をいただきました。

寺院を取り巻く環境が厳しい中ではありますが、現代を生きている私たちがこの念仏の教えに出遇うことができたのは、親鸞聖人のご誕生があり、そしてその教えを明らかにしてくださったからです。私たちはその長い伝統と歴史に思いをいたし、ともに阿弥陀如来に願われていることの感謝と慶びの輪をさらに広めていくことが果たすべき使命

であろうと考えます。このたびの慶讃法要を機縁にその責務の重さを再確認させていただいたことであります。

本年も「自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現」に向けて貢献できるよう皆さまにはご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

合掌

◇寺院女性会連盟第二回研修会開催

去る十二月六日、第二回寺院女性会連盟研修会が開催され、教区内の寺院女性八十名余りが参加した。今回は、仏教こども新聞編集長で月刊誌『大乘』に「結婚してお坊さんになりました」を連載中の前田純代さん（広島県善法寺坊守）を講師に招き、「あなたは何色の花ですか？」というテーマで研修した。

はじめに、前田さんが同級生との結婚を機に会社を辞め僧侶になられたことやあるご門徒さんとの出遇いによって、煩惱を満足させる喜びでなく本当の喜びを知り、お念仏に出遇えた喜びを語られた。

続いて寺院女性の悩みについて、ある坊守さんからの「戸惑ったりストレスを感じたときに、どのようにしてその問題や緊張に向き合われてこられたのでしょうか？ また、今後坊守となっていく方々にアドバイス等ありましたらいただきたいです」という質問に対して、ご自身の経験を中心に、経済・後継者・人間関係の問題をあげられました。寺院女性には周囲（地元）に気軽に相談できないし、一般の友人はお寺の事情を理解できず、家族の中で疎外感を感じてしまつていたと述べられ、知らないうちに良い坊守・嫁にならねばならない、電話や来客に対応せねばならない、跡取りを生まねばならない等、知らないうちに『ネバネバ病』に罹っていると云われた。また、休みがない、旅行に行けない、悩みを相談できる相

手がない、プライバシーがない、言いたいことが言えない等『ナイナイ病』にも罹っていると指摘した。その解決のひとつとして、会社員時代の新たな切り口を探す逆転の発想を考えていく経験から、「ねばならぬい」を「なくてよい」に転換することが大事だとし、良い坊守・嫁にならなくてよい、電話や来客に対応しなくてよい、跡取りを生まなくてよい等に転換。転換したことで新たな発想、家族やご門徒にお願いができればよいになり、いろいろな人や機会に助けられることになったと述べられた。

そして確固たる坊守像というものはなく、100人いたら100通りの坊守さんがいても良いと言われ、人に任せる・役を辞める・良い坊守や僧侶になることを諦め、私たちは“仏の子ども”として生き、好きなことと仏法を組み合わせることが大事とまとめられた。

★第四十六回もち米進納団体参拝—高岡教区講社連盟—

高岡教区講社連盟では、十二月七日（木）～八日（金）にかけて『もち米進納本山団体参拝』が行われ、藤井成正講社連盟会長他、講員三十二名が参加した。この行事は「本山のお正月の鏡餅と御正忌のお供えに」と、毎年暮に講員がもち米一握りを持ち寄って本山に進納したのがきっかけに始まったもので、今年で四十六回目を数える。今年も昨年引き続き大型バスをチャーターしての団体参拝となった。

初日は高岡教務所を午前八時に出発し、戸出郵便局・砺波文化会館を経由して、砺波インターから北陸自動車道に乗って、京都に向かった。大谷本廟にももち米を六十kgを進納していることもあり、最初に大谷本廟に立ち寄って進納式が行われ、勝堂行恵参拝教化部（大谷本廟担当）主管が目録が手渡された。続いて参加者は世界文化遺産にも登録されている金閣寺と、臨済宗妙心寺派の本山でもある妙心寺を拝観した。今回の宿泊は聞法会館を利用し、夕食懇親会では本願寺で講社を担当している参拝教化部から職員四名が参加されて懇親を深めた。

二日目は本山の御晨朝に参拝し、一旦聞法会館に帰って朝食を済ませたあとに再度本山に行き、十二月八日は本願寺第十九代本如上人のご命日にあたっていたこともあり、御影堂で勤修された御祥月法要にお参り

した。続いて御影堂において門主様との記念撮影とご親教があり、「親鸞聖人のお開きくださいました浄土真宗のみ教えは私たちの生きる力となり支えとなる教えとして、いくつもの時代を超えて今日の私たちにまで伝えられてきました。講社の皆さまにはこのみ教えを後世にも伝えていただきたいと思います」とのお言葉をいただいた。その後、もち米進納式が執り行われ、藤井成正講社連盟会長より尾井貴重本願寺執行にもち米一、二〇〇kgの目録が手渡され、尾井執行より「今回が第四十六回目ということですが、これまでの皆様のご懇念に深く感謝いたします」とのお礼の言葉があった。

このあと書院でお斎の接待があり、厳かな雰囲気の中で食事をいただいた。昼食後、本山を出発し、途中、京都駅周辺で自由時間を過ごしたのち帰路についた。

講社連盟ではこれまで四十六回にわたり本山にもち米を進納してきたが、講によっては目標懇志額が集まらないなど、講社を取り巻く状況は年々厳しくなっており、もち米進納のあり方についても検討することになっている。

★高岡教区災害対策委員会開催

一月十日、一月一日に発生した能登半島地震の被害対応のため教区災害対策委員会を開催した。

委員会では、高岡教区各組から提出の寺院被災状況を確認し、まずは教区内寺院の支援を優先することを確認した。

まず、お見舞金については、寺院建物の被害が甚大で「応急危険度判定」が、危険・要注意とされたご寺院に対してお見舞金を交付することとなった。

また、支援金・義援金募集については、高岡教区のご寺院が被災された状況にあり、ご負担にならないよう、支援金・義援金の受け入れ態勢を整えるのみとし、教区報一月号（本号最終頁）に教区災害対策委員会の郵便振替口座の情報を記載し、ご依頼はしないことになった。

最後に、支援活動、ボランティア等の募集については、高岡教区ホームページに情報を載せ、いち早く皆さまにお知らせすることと決定した。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

なぜ差別や戦争が浄土真宗にとって課題なのか？

「社会の問題に取り組むことより仏教・浄土真宗の教えを学ぶことのほうが大切だ」という声を聞くことがあります。「学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

教育哲学者の林竹二さんは、「学ぶということとは、覚えこむこととはまったくちがうことだ。学ぶとは、いつでも何かが始まることで、終わることのない過程に一步ふみこむことである。一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことではないか。学んだことの証しはただ一つで、ものを見る見方・考え方が変わり、生き方が変わるということだ。そして見方が変わればそれに応じて世界そのものが変わっていく」といわれました。私のものを見る見方・考え方、生き方が変わらなければ、学んだことにはならないということでしょう。仏教・浄土真宗の教えを知識や教養として身につけて完結するのではなく、私の生き方を変えていくための学び、現実にある課題を克服していくための学びへと深めていくことが重要です。仏教・浄土真宗の学びとは、答えを求めるのではなく、「私にとってどうなのか」という問いを持ち、その問いを教えに聞いていくことだと私は考えています。仏教・浄土真宗の教えを学んだからといって私の苦しみや不安がなくなるわけではありません。むしろ、さまざまな問題にであうことによって、他人事では済まない多くの課題と向き合わざるを得なくなり、学ぶとは、終わらなき旅を続けていくことなのかもしれません。

「教えと社会の問題は別次元のことだ」という意見もあります。差別や戦争に代表される社会的課題に向き合うことへの抵抗感はどこからくるのでしょうか。それらの課題から逃げたい、自分の立場を明らかにしたくない、問われたくない、考えたくもないということでしょうか。しかし、私たちがこの社会に生きる以上、問われたくなくても考えたくなくとも向き合わざるを得ないので、私たちは社会的課題に無関心でい

られても、無関係ではいられないのです。もし歴史的・社会的な現実と仏教・浄土真宗の教えがまったく関係のない別次元のものとしたら、教えはいったいどこに存在しているのでしょうか。社会的課題を問題にし得ない教えに存在意義（価値）はあるのでしょうか。教えは私たちがつくる社会の中にこそはたらいっているのではないのでしょうか。

なぜ差別（人権問題）や戦争（非戦平和・ヤスクニ問題）が浄土真宗（教団・僧侶・門徒・私）にとって課題なのでしょうか。それは、差別や戦争が阿弥陀如来の教え（願い）に反するからです。阿弥陀如来の教え（願い）に反して教団が差別や戦争に加担してきたからです。また、差別や戦争への加担の事実から私たちの教団（教えの受けとめかた）が今なお問われているからです。かつて私たちの教団は「あなたたちが聞き語っている教えは本当に親鸞聖人の教えなのですか？」と被差別部落の門徒、僧侶から問われました。そして問われてもなお、その声に背を向け、差別の現実に向き合うことができませんでした。その教団・僧侶の閉ざされた教学と生き方が部落差別をはじめとするさまざまな差別（人権侵害）を容認・温存・助長・再生産してきました。信心と社会とを分離し、信心を個人の心の中だけの問題としてきたことが、社会の諸問題に対する無知・無関心・無理解・無自覚を生み出したのです。戦争への加担の事実から問われたのも、「戦時教学」という戦争を肯定する教えの受けとめでした。

社会にあるさまざまな問題は、必ず人と人との関係性の中で起こっています。「縁起」という教えは「あらゆる存在は関係性のなかにあり、この世界に私と関係がないものなど何一つない」ということです。現代社会の問題は、単に社会的課題にとどまらず、教えに生きようとする私たちにとって日常の中で問い続けなければならない教学的課題です。苦悩の現実を生きる当事者として、すべてを私につながる課題として受けとめ、その克服に向けての運動を続けていきたいと思えます。

【高岡教区委員会常任委員・伏木組要願寺 林 史樹】

◇これからの日程（1/14～2/28）◇

1月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座	
	※14、15、16日は、御正忌報恩講のため、教務所事務は休業いたします。	
18	聖典セミナー 教区新年会（開催中止）	総代会組代表者会
20		まことの保育研修会
22	連区実践運動協議会	仏婦執行部会 常例会所懇談会
23		仏婦広報専門委員会 子ども若者ご縁づくり
24		九条の会
25		前進座公演実行委員会
26		仏婦新年会（開催中止）
27		ビハーラ全国集会（京都）
29		第2回中央委員会（web）
30		布教団研修会
2月		
4		仏壮ボウリング大会
5		青年布教使研修会（岐阜）
7	組長会慰労会	
9		教学研究室企画会議
14	常例法座	
16		藤の会（石川教区）
19		矯正教化管区連絡会 （web）
20	聖典セミナー 連区職員研修 web	
22		仏婦実践運動研修会Ⅱ
26		ビハーラ研修会
28		門推連絡協議会

高岡教区能登半島地震義援金・支援金について

令和6年能登半島地震により被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、高岡教区では、災害対策委員会の議により、義援金・支援金を受け入れる郵便振替口座を下記の通り開設いたしました。また、教務所でも受付しております。

募金の名称 「高岡教区能登半島地震義援金・支援金」

郵便振替 00700-0-38050

加入者名 高岡教区災害対策委員会

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

●2月11日（日）

伯水永雄師

（高岡教区）

●2月25日（日）

未 定

（高岡教区）

※高岡教区及び富山教区が主催し、北日本放送（KNB）にて毎週日曜日午前6時から放送しております「西本願寺の時間」は、放送を継続しております。

また、西本願寺では、動画配信サイトを設置し話等を配信しております。ご視聴ください。

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>



【西本願寺高岡会館2月の常例法座】

ご講師： **山岸智史師**

（五位組珉照寺）

ご講題：『 **未 定** 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。